

【報道関係各位】

2013 年の花粉症に関する実態調査

- 今年、花粉症を発症したのは 45%。昨シーズンの 41%から増加
- 花粉症の主な症状は「鼻水」「くしゃみ」「目のかゆみ」が 8 割以上、最もつらい症状は「鼻づまり」
- 発症者の半数が市販薬を利用。病院を利用した人は 3 割、両方利用した人は 16%
- 花粉症対策商品トップは「マスク」「目薬」「鼻炎薬」「点鼻薬」
- 花粉症で通院した診療科は「耳鼻科」50%、「内科」40%、「眼科」14%

2013 年 6 月 3 日
株式会社マクロミル
(証券コード: 東証一部 3730)

株式会社マクロミル(本社:東京都港区、代表取締役会長兼社長:杉本哲哉)は、2013 年の花粉症の実態と対策について、全国の 20~69 歳の男女を対象に調査を実施しました。調査手法はインターネットリサーチ。調査期間は 2013 年 5 月 2 日(木)~5 月 5 日(日)。有効回答数は 3,000 名から得られました。

【調査結果概要】

■ 今年、花粉症を発症したのは 45%。昨シーズンの 41%から増加

今シーズンと昨シーズンの花粉症の発症を尋ねたところ、「昨年は発症しなかったが今年は発症した」人が 6%、「昨年も今年も発症した」人が 38%と、今年発症した人は 45%となりました。「昨年も今年も発症していない」人は 53%となり、約半数の人が花粉症を発症したことがわかりました。

■ 花粉症の主な症状は「鼻水」「くしゃみ」「目のかゆみ」が 8 割以上、最もつらい症状は「鼻づまり」

今年、花粉症を発症した人に症状の種類を尋ねると、「鼻水」88%、「くしゃみ」81%、「目のかゆみ」80%、「鼻づまり」58%となりました。症状の重さを尋ねると、「大変苦しかった」「苦しかった」の合計値が「鼻水」では 56%、「くしゃみ」では 47%、「目のかゆみ」では 52%となっているのに対して、「鼻づまり」は 64%と比較的症状が重いことがわかりました。

■ 発症者の半数が市販薬を利用。病院を利用した人は 3 割、両方利用した人は 16%

今年、花粉症を発症した人に市販薬と病院の利用状況について尋ねました。通院せず市販薬(「鼻炎薬(内服薬)」「点鼻薬」「目薬」)だけを利用した人は 37%、通院したが市販薬を利用していない人は 16%、病院と市販薬ともに利用した人は 16%、市販薬と病院ともに利用していない人は 32%となっており、発症者の半数が市販薬、3 割が病院を利用していることがわかりました。

■ 花粉症対策商品トップは「マスク」「目薬」「鼻炎薬」「点鼻薬」

今年、花粉症を発症した人に市販の商品の購入状況を尋ねたところ、「マスク」が 52%と最も多くなりました。市販薬では、「目薬」38%、「鼻炎薬(内服薬)」29%、「点鼻薬」18%となっており、「目薬」の購入が多いことがわかりました。市販薬の購入理由としては、「気軽に買えるので」63%、「病院に行くのが面倒なので」41%との回答が多く、次いで「市販薬で十分対処できるので」29%、「医療用医薬品の成分入りの薬が市販薬として購入できるので」27%と市販薬の効果に対する信頼も伺えました。

■ 花粉症で通院した診療科は「耳鼻科」50%、「内科」40%、「眼科」14%

今年の花き対策で通院した人(「予防での通院含む」)に、利用した診療科を尋ねたところ、「耳鼻科」が 50%と多く、「内科」40%、「眼科」14%となっていました。「眼科」が少ない理由としては、目の症状は市販薬の「目薬」で対応しているからだと推測されます。また、病院を利用する理由は、「医者の診察をしてもらいたいので」「毎年行っているのだから」とも 41%となっており、医者に対する信頼と習慣が大きな要因となっていることが伺えます。また「市販薬は効かないと思うので」18%、「自分の症状がどの市販薬で対処できるかわからないので」15%、「市販薬を使ったが、効かなかったのだから」14%と、市販薬に対する不満も少なからず伺える結果となりました。

▼ 詳細レポート:http://www.macromill.com/r_data/20130603mrkafunsysyou/index.html

2013 年の花粉症に関する実態調査

【調査概要】

調査方法:	インターネットリサーチ						
調査地域:	全国						
調査対象:	20～69 歳男女(マクロミルモニタ会員)						
有効回答数:	合計 3,000 サンプル		20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上
		男性	300	300	300	300	300
		女性	300	300	300	300	300
調査日時:	2013 年 5 月 2 日(木)～5 月 5 日(日)						
調査機関:	株式会社マクロミル						

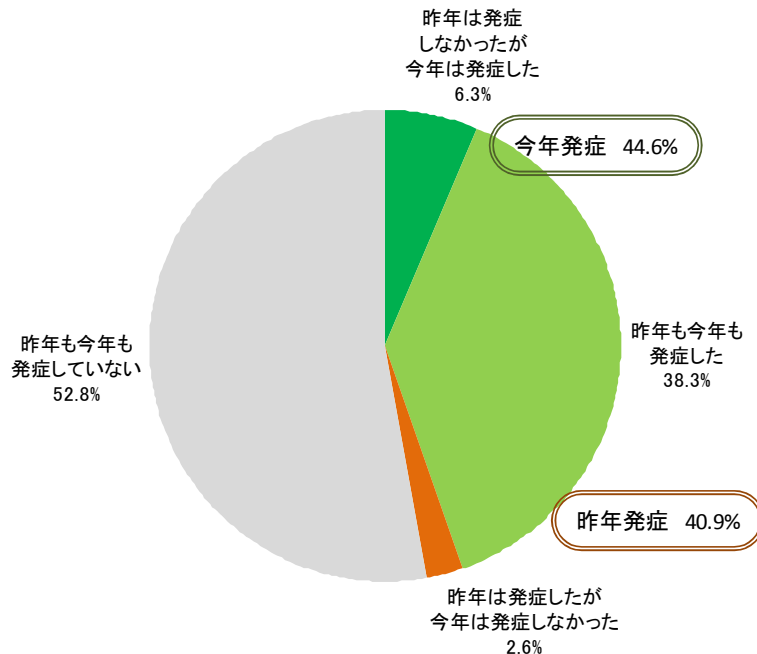
【調査結果詳細】

■ 今年、花粉症を発症したのは 45%。昨シーズンの 41%から増加

今シーズンと昨シーズンの花粉症の発症を尋ねたところ、「昨年は発症しなかったが今年は発症した」人が 6%、「昨年も今年も発症した」人が 38%と、今年発症した人は 45%となりました。「昨年も今年も発症していない」人は 53%となり、約半数の人が花粉症を発症したことがわかりました。【図 1】

【図 1】花粉症発症状況 (n=3000)

あなたは今シーズン、花粉症を発症しましたか。昨年のシーズンについてもあわせてお答えください。(一つだけ)

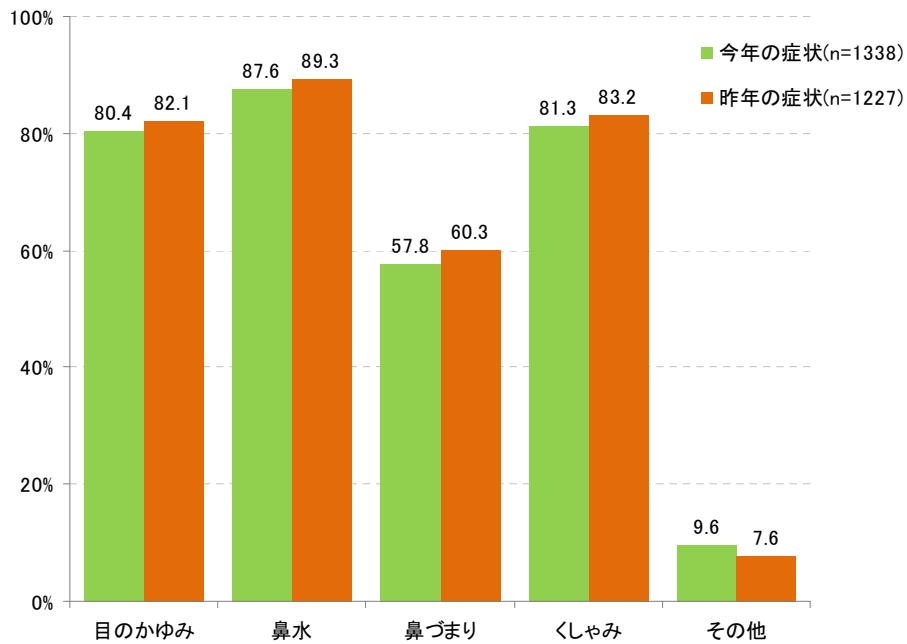


■ 花粉症の主な症状は「鼻水」「くしゃみ」「目のかゆみ」が8割以上、最もつらい症状は「鼻づまり」

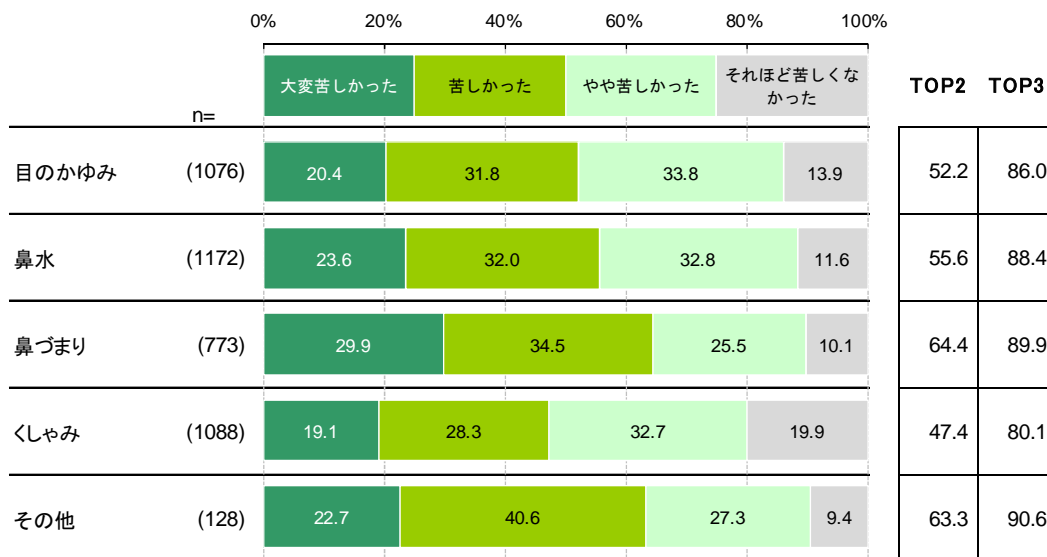
今年、花粉症を発症した人に症状の種類を尋ねると、「鼻水」88%、「くしゃみ」81%、「目のかゆみ」80%、「鼻づまり」58%となりました。【図2】

症状の重さを尋ねると、「大変苦しかった」「苦しかった」の合計値が「鼻水」では56%、「くしゃみ」では47%、「目のかゆみ」では52%となっているのに対して、「鼻づまり」は64%と比較的症状が重いことがわかりました。【図3】

【図2】花粉症の症状※花粉症発症者ベース
昨年、今年について、どのような花粉症の症状が出ましたか。
(それぞれいくつでも)



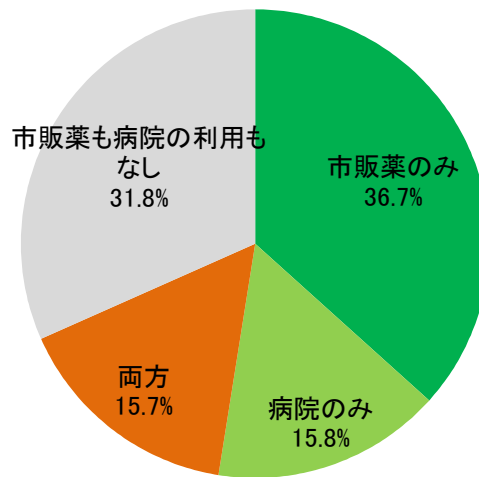
【図3】花粉症の重篤度※各症状発症者ベース
今年の花粉症の以下の症状は、どの程度苦しかったですか。
(それぞれ1つ)



■ 発症者の半数が市販薬を利用。病院を利用した人は 3 割、両方利用した人は 16%

今年、花粉症を発症した人に市販薬と病院の利用状況について尋ねました。通院せず市販薬(「鼻炎薬(内服薬)」「点鼻薬」「目薬」)だけを利用した人は 37%、通院したが市販薬を利用していない人は 16%、病院と市販薬ともに利用した人は 16%、市販薬と病院ともに利用していない人は 32%となっており、発症者の半数が市販薬、3 割が病院を利用していることがわかりました。【図 4】

【図 4】市販薬と病院の利用状況※花粉症発症者ベース(n=1338)

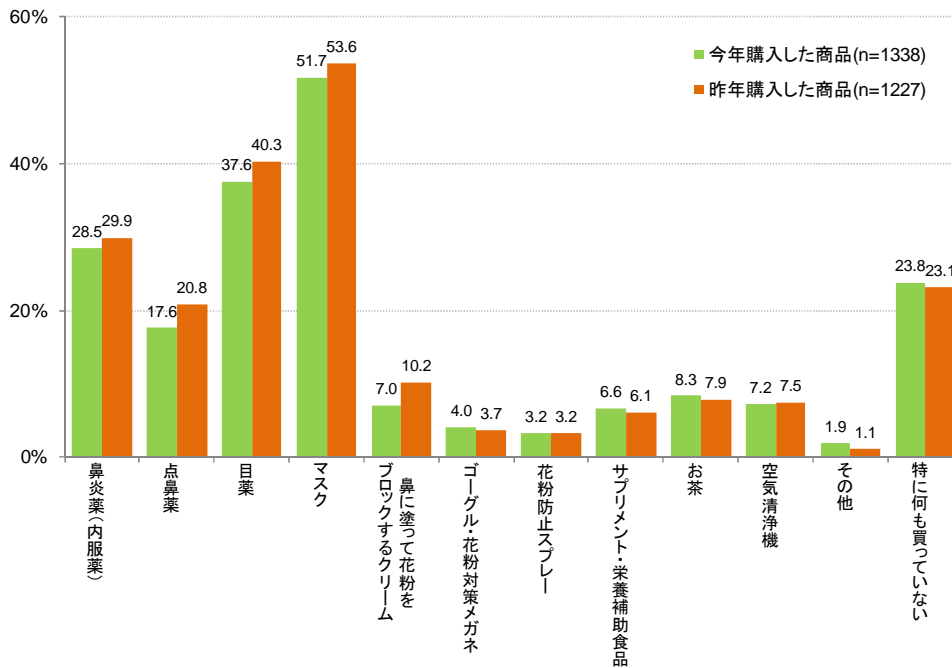


■ 花粉症対策商品トップは「マスク」「目薬」「鼻炎薬」「点鼻薬」

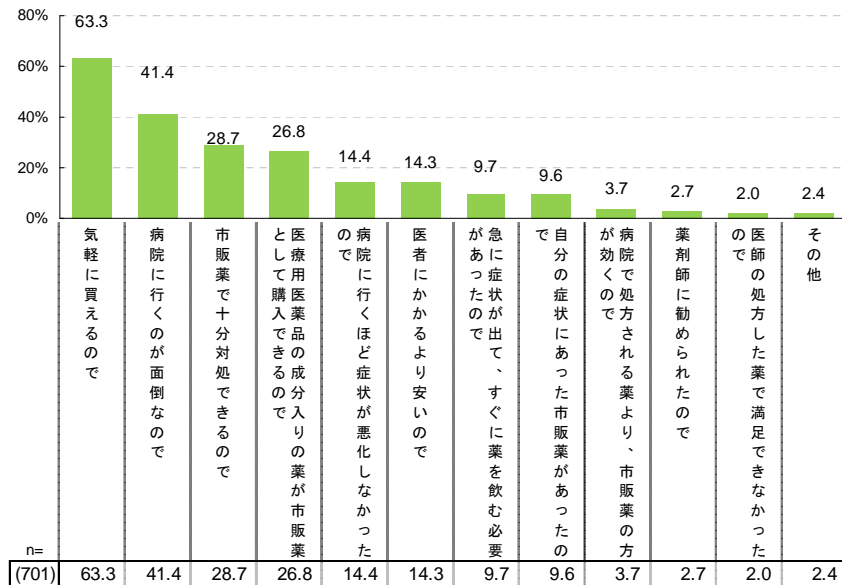
今年、花粉症を発症した人に市販の商品の購入状況を尋ねたところ、「マスク」が52%と最も多くなりました。市販薬では、「目薬」38%、「鼻炎薬(内服薬)」29%、「点鼻薬」18%となっており、「目薬」の購入が多いことがわかりました。【図5】

市販薬の購入理由としては、「気軽に買えるので」63%、「病院に行くのが面倒なので」41%との回答が多く、次いで、「市販薬で十分対処できるので」29%、「医療用医薬品の成分入りの薬が市販薬として購入できるので」27%と、市販薬の効果に対する信頼が伺えました。【図6】

【図5】花粉症対策購入商品※花粉症発症者ベース
あなたは花粉症対策でどのような市販の商品を購入しましたか。
今年、昨年の対策について、それぞれお答えください。(それぞれいくつでも)



【図6】市販薬購入理由※「鼻炎薬(内服薬)」「点鼻薬」「目薬」購入者ベース
市販薬を購入した理由をお答えください。(いくつでも)



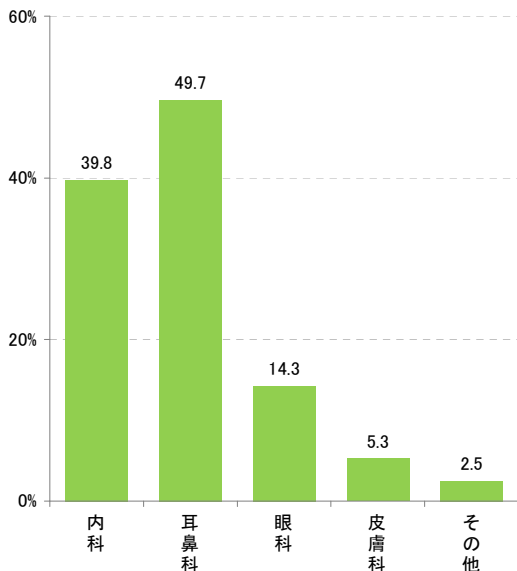
※全体値の降順にソート

■ 花粉症で通院した診療科は「耳鼻科」50%、「内科」40%、「眼科」14%

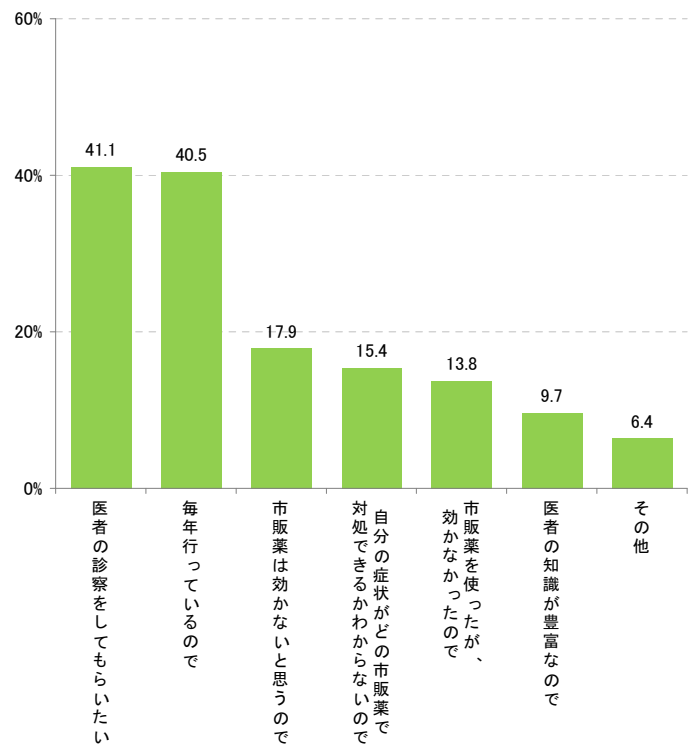
今年の花粉症対策で通院した人（「予防での通院含む」）に、利用した診療科を尋ねたところ、「耳鼻科」が50%と多く、「内科」40%、「眼科」14%となっていました。「眼科」が少ない理由としては、目の症状は市販薬の「目薬」で対応しているからだと推測されます。【図7】

また、病院を利用する理由は、「医者診察をしてもらいたいので」「毎年行っているのだから」とともに41%となっており、医者に対する信頼と習慣が大きな要因となっていることが伺えます。また「市販薬は効かないと思うので」18%、「自分の症状がどの市販薬で対処できるかわからないので」15%、「市販薬を使ったが、効かなかったのだから」14%と、市販薬に対する不満も少なからず伺える結果となりました。【図8】

【図7】利用した診療科※通院者ベース(n=435)
花粉症の治療や予防のために、今年シーズンに利用した病院の診療科をお答えください。
(いくつでも)



【図8】通院理由※通院者ベース(n=435)
花粉症の治療や予防のために、今年シーズンに病院を利用した理由をお答えください。
(いくつでも)



－ 本件に関するお問い合わせ先 －

株式会社マクロミル MR 事業部：メディカルグループ 横山
TEL：03-6716-0710 MAIL: m3d@macromill.com
URL：<http://www.macromill.com/>